

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,758	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,758

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			%		%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）					%		%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	1.015	t-CO ₂ / MWh	0.9846	t-CO ₂ / MWh	1.078	t-CO ₂ / MWh	1.034	t-CO ₂ / MWh	1.151	t-CO ₂ / MWh
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 6.2	%	▲ 1.9	%	▲ 13.4	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / MWh		t-CO ₂ / MWh		t-CO ₂ / MWh
削減率（対基準年度）					%		%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和6年度は、空調機稼働台数の低減及び、フリーアクセスパネルの配置見直しにより、共用設備の消費電力が減少しましたが、データセンターサービスクローズ（2025/3/31）に向けたサーバー機器の撤去により、CPU使用電力量（原単位の指標）が前年に比べ減少した為、原単位の改善には至りませんでした。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源実践（空調機）	電算機システム用空調設備の稼働台数を4半期毎に見直し、消費電力低減	年度毎に空調機1台低減により年間89,790kWhの削減を目標とする。	フリーアクセスグリルパネルの配置見直しにより冷房効率の向上を図り、空調機稼働台数の見直しにより空調機12台を低減し（年間1,077,480kWhの削減）、消費電力を低減しました。
省エネルギー・省資源実践（冷暖房）	①事務室における冷房設定温度の28℃徹底を実施。 ②外気が28℃を超える時、電算機システム用屋外機51台に散水し冷房効率を上げる。	②散水開始前より年間14,187kWhの削減を目標とする。	②散水による冷房効率化により、年間14,296kWhの低減を実施しました。
省エネルギー・省資源の行動実践（照明）	使用しない部屋の消灯の徹底を実施。		左記取組を継続実施
省エネルギー・省資源の行動実践（OA機器）	①パソコン類退社時の電源切断の徹底。離席中は、ディスプレイの電源切断を行う。 ②パソコン更新時に省エネ型の採用		左記取組を継続実施
省エネルギー・省資源の行動実践	最寄階のエレベータ利用は極力避け、階段利用の推奨		左記取組を継続実施

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・空調の適正温度設定 ・クールビズ導入 等
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・未使用エリアの消灯、空調断励行 等
--